



2021年2月28日発行



今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶	1
第14回国際春季フォーラムのご案内	2
第39回大会のご案内	2
大会優秀発表賞審査結果報告	3
(Student) Workshopの企画募集	3
被災された方の会費免除のお知らせ	3
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	4
大会運営委員会より	5
広報委員会より	6
学会賞委員会より	6
日本英語学会2020年度通常予算収支 中間報告書	7
言語系学会連合について	8
人文社会科学系学協会における男女共同 参画推進連絡会（GEAHSS）について	8
事務局より	9

会長挨拶

会長 廣瀬 幸生

新型コロナウイルス感染症が拡大するなか新年を迎えましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。1月には首都圏や大都市圏を中心に緊急事態宣言が出されるなど、感染は未だ収束の兆しが見えません。その影響で昨年から社会が一変し、教育現場や研究環境も大きく混乱し、その余波は現在なお続いています。日本英語学会について言えば、昨年5月の国際春季フォーラムは、あまりに急な事態のため、中止とせざるを得ませんでした。

秋の全国大会も、コロナ禍で中止とするわけにいかないため、現地開催を中止する場合は、オンラインでの開催を実施するという方針を早めに決

定しました。それで、昨年新たに立ち上げた学会のオンライン化推進ワーキンググループでオンライン開催の基本方針を検討いただき、その基本方針にそって、大会運営委員会のほうで具体的なプログラムや開催方法等を整えていただき、11月7日・8日にZoomによるオンラインでの第38回大会を開催することができました。

初めてのオンライン開催ということで、シンポジウム3件については来年度延期の措置を取らせていただきましたが、研究発表・特別講演・ワークショップは（辞退者を除き）予定通り実施できました。大会2日間を通じて130～150名程度の参加者があり、研究発表では優秀発表賞1件と佳作1件が出ましたことを非常に喜ばしく思っています。また、大会アンケートの回答が41件ありましたが、回答者には概ね好評いただいたようで安心いたしました。このように学会初のオンライン大会が無事に実施できましたのも、大会運営委員会の先生方の大変献身的なご尽力とそれをサポートする事務局関係者のおかげであり、この場を借りて改めて心よりお礼申し上げます。

なお、コロナ禍の収束が見通せない現状では、5月8日・9日開催予定の第14回国際春季フォーラムについても関西大学での現地開催は取り止め、オンライン開催にすることを決定いたしました。これも感染拡大防止のためですので、会員の皆様にはご理解のほどよろしく願いいたします。

学会賞関係では、今年度は著書1件に日本英語学会賞（著書）が授与されました。受賞者は岩田彩志氏で、岩田氏は2009年度の受賞に続いて2度目の受賞になります。日本英語学会賞を2度受賞するというのは、まさに快挙です。氏の優れた研究に対してだけでなく、氏がこれまで貫かれてきた求道者のような研究姿勢にも敬意を表したいと思います。

私の会長としての任期も、この3月末までとな

りました。2年前の会長就任挨拶でも申し上げたように、日本英語学会は1983年の設立以来、機関誌の充実、国際化・国際連携の強化、学会賞など各種顕彰制度や助成金制度の導入など多くの様々な事業が整えられ、充実化してきた一方で、それに対応する事務量もかなり増大化してきました。そこで、事務局の負担を少しでも軽減するために、事務局の仕事の見直しや業務の簡素化を一つの目標として運営を進めてまいりました。理事会・評議員会・各種委員会のご理解とご協力もあり、議事録の簡略化などをはじめとして事務的業務の簡素化はそれなりに達成できましたが、大きな課題としては、学会のペーパーレス化・オンライン化の推進があります。このうち大会関係では、*Conference Handbook* と *JELS* は電子版のみの発行となりました。特に *JELS* については、第37号からPDF版がウェブサイトにアップされ、オープンアクセス可能となっていますので、学会での研究発表論文がより多くの研究者の目に触れることが期待できます。

今後は、ニューズレターや研究発表応募・論文投稿・査読結果通知等もオンライン化を目指していく必要があります。そのために、小野尚之理事を委員長として、前述のオンライン化推進ワーキンググループを昨年立ち上げ、できるところから検討していただくことになりました（ところが、予期せぬコロナ禍の襲来で、最初はその対応を検討いただいた次第です）。学会のペーパーレス化・オンライン化は、事務局や各種委員会の仕事量の軽減にも繋がりますので、会員の皆様にはご理解のほどよろしくお願いいたします。

すでにご存じのように、4月からは東北大学の金子義明氏が新会長に就任され、私は副会長としてあと1年、新会長を支えさせていただくこととなります。日本英語学会は、特定の言語学分野に特化した学会ではなく、言語学の多様な専門分野を広くカバーする大きな学会です。学会発展のためには、異なる分野間での議論や研究交流も大いに促進される必要がありますので、多くの会員の皆様が今後とも学会活動に積極的にご参加くださいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

第14回国際春季フォーラムのご案内

第14回国際春季フォーラム (SF14) は次のとおり開催されます。

日時：2021年5月8日 (土)・9日 (日)

開催形態：Zoomによるオンライン開催

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。プログラム等に関するZoom情報については、後日学会ウェブサイト (<http://elsj.jp/about-the-elsj-spring-forum>) にアップロードしますが、その際、第38回大会と同じくパスワードが必要となります。EL 36-2の裏表紙裏に記載されておりますので、そちらをご参照の上、アクセスしてください。なお、最新情報につきましては、随時、学会ウェブサイトにて更新いたしますので、ご注視いただけますようお願いいたします。

SF14は、SF13の中止に伴い、SF13の開催校であった関西大学で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に歯止めがかからない中、緊急事態宣言も発出されたため、理事会承認のもと、会長、大会運営委員長、SF実行委員長、事務局長で判断し、オンライン開催となりました。

第39回大会のご案内

第39回大会は次のとおり開催される予定です。

日時：2021年11月13日 (土)・14日 (日)

場所：山口大学 吉田キャンパス

(〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1)

会員の方は奮って研究発表にご応募ください。応募締切は2021年4月1日(木) 24時(必着)です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄 (<http://elsj.jp/meeting-kitei/>) 掲載の同規定をご確認ください。また、「大会優秀発表賞」は、一昨年より審査の対象が拡充されましたので、奮ってご応募ください(詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください)。なお応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守していただきますようお願いいたします。そのうえで、必ず同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙(Excelファイル)

を締切り日厳守にてご送信ください。

大会優秀発表賞審査結果報告

第38回大会の大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会（オンライン開催）当日の発表（Zoomによる発表）に対する二次審査が行われました。審査結果については、12月に開催された大会運営委員会で審議され、平田拓也氏（名古屋大学大学院）「対格主語動名詞の史的発達についての一考察」に大会優秀発表賞を、松田麻子氏（お茶の水女子大学）“Indexical structures of “bound” plurals”に佳作を授与することが決まりました。

平田氏の発表は、詳細なデータに基づいて提案された分析が、今後関連分野での応用・発展可能性をもつことや更なる精緻化が期待できることが評価されました。その一方、格に関する一貫した理論的立場がなく、格付与に関する議論に一部説明不足が見られることが指摘されました。松田氏の発表は、英語のdependent pluralをshifted indexicalとして扱う分析が提案され、発想が面白く、発表も明快であった点が評価されました。その一方、分析を裏付ける経験的・概念的証拠が不足している、統語的な説明が不明瞭である等の指摘もなされています。

今回は初めてのオンライン開催における優秀発表賞ということもあり、運営側・発表側ともに苦労があった中での受賞となります。

(Student) Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第39回大会では、11月13日（土）の午前9時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイ

ト「秋季大会ワークショップ」欄（<http://elsj.jp/workshop/>）掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2021年3月31日（水）24時まで**に必着にて、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙（Excelファイル）を送信してください。

被災された方の会費免除のお知らせ

昨年発生しました大雨・台風などの自然災害により被害を受けられた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

昨年9月以降学会ウェブサイトでご案内しておりますように、これまでと同様、2020年度以降に国内で発生した自然災害により被害を受けられた会員の方につきましても、その災害が起こった年度、またはその翌年度の会費を免除する制度が適用されることが決まっております。**学会では特に災害は指定せず、会員ご本人の申請によって事務局で会費免除の手続きを行います。**

また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、当該年度に入会される方についても、該当される方は会費を免除いたします。

詳細につきましては、学会ウェブサイトの「**各種手続き・お問い合わせ**」をご覧ください。

免除を希望される方は、上記サイトにあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。

* 申請は随時受け付けます。

* 申請時においてその年度の会費が納入済みの方は、次年度の会費に充当させていただきます。

* 既に申請時の年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

ご不明な点は事務局までお問い合わせください（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会員会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、『え〜ごかくNo.73』でもお知らせしましたように、経過措置については2020年度をもって終了となります。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページにある「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。登録期間外のご申請はご遠慮いただけますよう、お願い申し上げます。

理事会より

◇ 会長選挙と理事選挙

2021年度は、2019年度から新たに実施された会長選挙制度に基づく2回目の選挙が行われます。新会長選挙制度では、選出された会長候補者にはまず2022年度副会長を務めていただき、その後2023年度より2年間会長を務めていただくこととなります。

また、2021年度は、会長選挙と合わせて理事選挙も行われます。会長選挙と理事選挙は、今後隔年ごとに同時に行われることになっております。

◇ 新たな「助成金」の運用

2018年度に創設された2つの助成金である「学生会員発表助成金」と「市川三喜研究助成金」が、昨年度から運用開始されています。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 会計

2020年10月28日から11月1日にオンライン（メール会議）で開催された理事会と、同年11月

2日から11月4日にオンライン（メール会議）で開催された評議員会において、日本英語学会2020年度収支中間報告（通常予算用、学生会員発表助成金用、ならびに市川三喜研究助成金用）が承認されました。中間報告書（通常予算用）は本ニューズレターの7ページから8ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動

大会運営委員長（退任）

木村宣美氏（弘前大学）が2020年12月14日付けで退任されました。1年間、大会運営委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

大会運営委員長（就任）

漆原朗子氏（北九州市立大学）が2020年12月15日付けで就任されました。任期は1年間です。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1325名（2021年1月18日現在）です。内訳は、学生会員34名、通常会員1105名、維持会員109名、海外会員19名、終身会員43名（顧問8名を含む）、賛助会員15団体となっております。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第37巻1号（2020年秋号）の刊行について

EL 第37巻1号（秋号）が刊行されました。Article 1編、Brief Article 1編、Review 5編が掲載されています。

◇ *English Linguistics* 第37巻2号（2021年春号）の刊行予定について

EL 第37巻2号（春号）は2021年3月に刊行される予定です。特別企画招聘論文（Invited Article）1編、Article 1編、Notes and Discussion 1編、Review 5編が掲載される予定です。

◇ **English Linguistics** 第38巻1号 (2020年秋号)
の応募論文について

2020年9月20日締め切りで投稿された一般論文の総数は7編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 3編 (Syntax 2, Semantics/Linguistic Typology 1)、Brief Article 3編 (Syntax 3)、Notes and Discussion 1編 (Syntax 1) でした。また、第37巻2号に投稿されて「4ヶ月書き直し」と判定され、第38巻1号に再投稿された論文の総数は5編で、Article 4編 (Syntax 3, Semantics 1)、Brief Article 1編 (Semantics 1) でした。

以下の表は、懇恊によるReview Article 1編およびReview 2編と前号より「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文5編も含めた、第38巻1号の審査状況です (2021年1月5日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	3	0	2	0	1
BA	3	0	0	0	3
N&D	1	0	0	0	1
RA	1	0	0	0	1
Review	2	1	0	0	1
4ヶ月書き直し					
AR	4	2	1	0	1
BA	1	1	0	0	0
合計	15	4	3	0	8

◇ **English Linguistics** 第38巻2号 (2022年春号)
への投稿について

2022年3月発行予定のEL 第38巻2号の応募締め切りは、2021年4月1日(木) 24時(必着)です。

応募される方は、学会ウェブサイトに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ **2020年度EL論文賞**について

EL 論文賞について、2020年度は2019年9月20日締め切りのEL 第37巻1号 (2020年9月刊行済み) で採用となったAR 2編とBA 1編、および2020年

4月1日締め切りのEL 第37巻2号に投稿され、すでに採用となったAR 1編の計4編について、先ず、分野別一次審査を行いました。審査対象となった論文の分野はSyntax 2編、Historical Linguistics 1編、Pragmatics 1編です。総合的に審査した結果、2020年度は1次審査通過論文なしとなりました。

◇ **preprintの公開**について

EL への投稿原稿 (preprint) を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ **大会運営委員会の構成**

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 漆原朗子氏

(副委員長) 本間猛氏

(委員) 前田雅子氏 (国際春季フォーラム実行委員長)、西口純代氏 (国際春季フォーラム副実行委員長)、高梨博子氏、西山淳子氏、藤川勝也氏、茨木正志郎氏、大関洋平氏、坂本祐太氏、[以上留任] 今西祐介氏、白杵岳氏、大谷直輝氏、田川拓海氏、山村崇斗氏 [以上新任]

◇ **第39回大会シンポジウム企画**について

第38回大会は初めてのオンライン開催となり、開催形態をできるだけシンプルにする必要があったため、予定されていたシンポジウム3件 (理事会主催の公開特別シンポジウム1件を含む) が延期されました。第39回大会では、延期された3件のシンポジウムが開催されること、また、特別講演の新設に伴ってシンポジウムの件数を減らす方向になったことを鑑み、第39回大会では新たにシンポジウムを募集しないことになりました。

なお、予定されているシンポジウムは、「今、英語教育を考える—英語にかかわる研究の視点から」(理事会主催の公開特別シンポジウム)、「タ

スク指向対話データが拓く発話理解と相互行為の言語研究」、「headとラベル付けをめぐる」(タイトル等変更の可能性あり)です。

◇ JELS 38について

JELS 38は電子版のみで作成され、学会ウェブサイトに掲載されます。3月末公開を予定しております。なお、前回のJELS 37より、希望者には、レポートとして、ワークショップとシンポジウムに加え、特別講演も掲載することにしております。ただし、ワークショップやシンポジウムと同様に、「論文」ではなく「報告」としての扱いとなります。JELS 投稿用の原稿サンプル等を改定し、ウェブサイト (<http://elsj.jp/jels/jels-kitei/>) に掲載していますので、ご投稿の際にはご一読ください。

◇ 第38回大会の報告

第38回大会は、2020年11月7日(土)・8日(日)の両日、オンライン上(Zoom使用)にて開催されました。本大会では、ワークショップ2件、特別講演5件、研究発表22件が行われました。なお、オンライン開催となったため、特別講演1件と研究発表1件がオンライン発表を辞退されました。今回はZoom開催であったため、大会を通しての参加人数を把握できませんでしたが、3つのパラレルセッション合計で一番参加者の多かった時間帯は、1日目は140名、2日目は151名でした。今回はオンライン開催のために書籍展示は叶いませんでしたが、8社に大会期間用URLをご提供いただき、一覧表にしたファイルを学会ウェブサイトにて大会期間中掲載しました。今回は、初めてのオンライン開催で大変な中、関係各位のご献身ならびに参加された諸氏のご協力により何とか開催できたことに対して、心より御礼申し上げます。また、今回はGoogle Formにて大会運営に関するご意見を伺いましたが、例年以上に貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

◇ 「親子の部屋」について

第39回大会については、コロナ禍の中での開催となる公算が高いので、「親子の部屋」を設置するかどうかは検討中です。今後の動向を含めた詳細は、今後学会ウェブサイトや9月発行予定のニューズレターでお知らせします。

◇ Conference Handbookの電子化について

第37回大会より始めたConference Handbookの電子化ですが、第38回大会から完全に電子版に統一されました。

◇ Conference Handbookの電子化に伴う学生大会参加費の減額について

Conference Handbookの電子化に伴い、第38回大会から学生用大会参加費を現行の2,000円から1,000円に減額することになりましたが、第38回大会はオンライン開催であったため、大会参加費を徴収しませんでした。したがって、この方針は第39回大会から適用されることとなります。なお、学生には、当学会の学生会員登録の申告資格と同様に、研究生・聴講生・PD・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生が含まれます。

広報委員会より

◇ English Linguistics バックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過したELのJ-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2021年1月25日現在、EL第32巻2号(2015)まで公開されております。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

学会賞委員会より

◇ 2020年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は、学会賞(著書)、学会賞(論

文)、新人賞の3部門で応募を受け、審査を行っています。今年度の選考は、2020年度学会賞委員会(加賀信広委員長、山口治彦副委員長、岡崎正男編集委員会委員長、岡田禎之編集委員会副委員長、和田尚明事務局長)のもとに実施されました。2020年4月1日から4月15日の応募期間内に、学会賞(著書)に著書2編の応募がありました。学会賞(論文)と新人賞への応募はありませんでした。

学会賞(著書)については5月下旬から10月中旬まで審査が行われました。その結果、2020年度学会賞(著書)は、岩田彩志氏(関西大学教授)の *English Resultatives: A Force-Recipient Account* (John Benjamins Publishing Company, 2020) に授与することになりました。選考結果は2020年11月7日(土)に開催された日本英語学会第38回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名は *EL* 第38巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載されます。

受賞作の概要と評価は以下の通りです。

◇ 学会賞(著書) 受賞著書

岩田氏の著書は、英語の結果構文に関して、主要な関連研究を批判的に議論したうえで、徹底的なコーパス調査に基づくデータの見直し作業を行うとともに、動態力学的な観点から結果構文のさまざまな現象に精緻で説得力のある分析を提示しており、その分析は国際的にみても現在の結果構文研究を先導するレベルにあると判断され、本学会の学会賞に値すると評価されました。

10月11日の意見交換会には37加盟学会のうち25学会が参加した。「人種差別と社会的不平等に関する提言に向けて」については、様々な肯定的意見と否定的意見が出され、学会連合としての一定の見解が出されるには至らず継続審議となった。「日本学術会議会員任命拒否問題について」各学会より様々な意見が出された。学会連合としては、「日本学術会議の声明文を全面的に支持します。」として、日本学術会議の声明文のURLを掲載するのが良いのではないかとという有力な意見が出されたが、この件については、さらに運営委員会を開き、審議することとなった。

意見交換会を受け、メールによる臨時運営委員会を経た後、11月3日に、本年度2回目の運営委員会が開かれた。「日本学術会議「第25期新規会員任命に関する要望書」に関する提言について」審議し、「学会連合は、日本学術会議が令和2年10月2日に発表した「第25期新規会員任命に関する要望書」を全面的に支持します。(2020年10月24日) <http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/pdf25/siryo301-youbou.pdf>」を決議した。学会連合のWSのデザイン更新も検討されており、日本英語学会としては、そのWGメンバーに日本英語学会事務局補佐の金谷優氏になっていただいた。

意見交換会の議事録および資料は、以下の言語系学会連合ウェブサイトの「役員名簿・議事録」のページで公開されています。

<http://www.nacos.com/gengoren/>

また、加盟学会の活動予定が、日本英語学会の大会予定も含めて、「加入学会カレンダー」に掲載されていますのでご活用ください。

人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について

2020年9月26日開催の第6回GEAHSS運営委員会で規約が改正され、GEAHSSの「委員長・副委員長は、本連絡会担当者の互選によって選任し(第6条)」、「委員長の所属団体に幹事学協会、副委員長の所属団体に副幹事学協会の担当を要請

言語系学会連合について

日本英語学会は昨年度（2019年度）委員長学会として運営を担当したので、本年度（2020年度）は単なる運営委員会として活動した。

本年度は、コロナ禍のため、2回の運営委員会と1回の意見交換会とも遠隔会議となった。

7月5日の運営委員会では、本年度の学会連合役員と運営体制が確認され、2019年度の活動と決算の報告に続いて、本年度の活動と予算の中間報告があった。「人種差別と社会的不平等に関する提言に向けて」という審議事項に関して、シャテラン運営委員長より、全国語学教育学会での取り組みが説明され、運営委員会としては、意見交換会に議題として提出することを承認した。

する（第9条）」ことになりました。GEAHSS第4期（2020.10.01～2021.09.30）の委員長には、青野篤子氏（日本心理学会）、副委員長には吉原雅子氏（日本哲学会）が選出され、幹事学協会には日本心理学会、副幹事学協会には日本哲学会が選出、承認されました。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2021年1月18日現在の会員総数は1325名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入してくださいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2021年度に学生会員として登録（2020年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2021年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。特に年度末の2月、3月に学生会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いいたします。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

- ①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。
- ②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

・申告期間：2021年4月1日～4月25日（必着）

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の（1）から（4）のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）

に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送してください。

- (1) 在学する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー
- (4) (元) 指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご連絡ください。

なお、コロナ禍の影響で申請期間内に学生会員を証明する書類を送付できない場合は、あらかじめ事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご相談ください。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ *EL*、*JELS* への論文投稿に関するお願い

EL、*JELS* に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信してください。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

EL に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文の*EL* 掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記してく

ださい。

JELS や所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させて*EL* に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用ください。

◇ *EL* 掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL* に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に*EL* に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ *JELS* 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録および学術情報レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL* 掲載論文の場合と同様に、事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）までお申し出ください。

JELS 掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術情報レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

なお、*JELS* 37からは電子化に移行しましたので、それ以降の掲載論文はオープンアクセスとします。したがって、*JELS* 37以降の*JELS* 掲載論文は再録及び学術情報レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合

に、いちいち事務局にお申し出いただく必要はありません。

◇ *EL* 公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で*EL* を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。*EL* がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしく願いいたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、*EL* への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力ください。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 終身会員の大会参加にあたってのお願い

終身会員におかれましては、大会ご参加時の受付にて、終身会員カードをご提示いただき、自ら終身会員である旨お申し出いただけますよう、お願いいたします。受付にはアルバイトの学生が多く協力してくれていますが、終身会員のお名前を存じ上げない場合が多く、特に混雑時にはなかなか配慮が行き届きません。（顧問を除く）終身会員におかれましては、大会参加費はお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。

◇ 開拓社の移転について

日本英語学会が事務局を置かせていただいている開拓社が昨年12月に移転しました。新しい住所等の情報は以下の通りです。

〒112-0013 東京都文京区音羽1-22-16

二見ビル5F

電話：03-5395-7101 Fax：03-5395-7105

なお、学会ウェブサイトについても、「入会申し込み」「各種手続き・お問い合わせ」に関わるページは新しい情報に変わりましたので、ご確認ください。

編集後記

昨年度同時期の編集後記の書き出しに「早くも春の便りを耳にするようになりました」という文言がありました。その裏でひそかに新型コロナウイルスの感染が拡大しつつあり、ましてや、今日に至るまで従来の生活パターンのあらゆる側面に影を落とすことになるとは、予想だにしておりませんでした。日本英語学会の活動も例に漏れず、第13回国際春季フォーラムは中止となり、第38回大会はZoomを利用したオンライン開催となりました。特に、オンライン開催は日本英語学会史上初のことであり、右も左もわからない中、木村大会運営委員長と田村書記の献身的な働き、大会運営委員会の先生方の多大なるサポート、そして、会員の皆様のご理解とご協力のおかげをもちまして、何とか開催にこぎつけ、大過なく終えることができました。関係してくださった皆様に、改めてお礼申し上げます。

今回の第14回国際春季フォーラム（SF14）こそは現地開催をと思っていたのですが、1月下旬の現時点でコロナ感染拡大は止まる気配がなく、残念ながらSF14もオンライン開催となります。特に、SF14の会場校として再度名乗り出てくださいました関西大学の岩田先生には大変申し訳なく思っておりますが、オンライン開催に関しても関西大学の関係各位のご協力をいただけることになり、前田SF実行委員長、小葉書記を中心に大会運営委員会の先生方とともに、現地開催とはまた違った雰囲気の実感した大会になるよう、鋭意努

力してまいりたいと思います。

2年前の頃は前事務局から仕事を引き継ぐ前で、この先2年はどうなるのかという漠然とした不安の中経過しておりました。2019年4月にスタートした後も、わからないことや突発事項が多く、失敗の連続でしたが、すぐに相談に乗ってくださった廣瀬会長や、献身的に業務を全うしてくださった事務局の皆さん、そして、各種委員会委員長をはじめとした先生方のご協力の下、あと数か月で次の事務局にバトンタッチできるところまで来ることができました。今大学を取り巻く環境は大変厳しく、ご自身の日常や研究を犠牲にしてまで日本英語学会の運営に携わってくださった皆様には、本当に頭が下がる思いです。心より感謝申し上げます。現在、事務局や大会運営委員会、編集委員会などにおける学会関連業務の簡素化を目指してワーキンググループが動いていますが、今後できることから少しでも簡素化を実現させ、後を引き継ぐ方々が少しでも業務軽減されるようになることを願っております。

最後に、コロナ禍の中、会員の皆様におかれましては、あらゆる面においてご苦勞なさっていることとご推察申し上げます。月並みの言葉ですが、必ず夜は明け、日は昇ります。Bette Midlerという歌手のThe Roseという歌の歌詞に次のようなものがあります。Just remember in the winter far beneath the bitter snows lies the seed that with the sun's love in the spring becomes the rose. 皆様と一緒に、一日でも早い「春」の到来を待ちわびています。 (N.W.)

2021年2月28日発行

編集・発行	日本英語学会
代表者	廣瀬 幸生
発行所	日本英語学会
	http://elsj.jp/

〒113-0013

東京都文京区音羽1-22-16

開拓社内

電話 (03) 5395-7101
